

第2回山口大学大学院経済学研究科公開シンポジウム

山口大学大学院経済学研究科は本研究科の教育・研究水準の向上を促進し、同時に地域住民に国際経済、経営学の先端的な研究成果を発信することを目的とし、平成24年度第2回目研究科公開シンポジウムを開催しました(12月8日(土)13:00-17:00, 共通教育棟1番教室)。テーマは『国際市場におけるアジア企業の動向と展望～金融危機下における日本企業の海外戦略について考える～』で、国内外から招聘した経済学、経営学分野の著名な講演者による学術水準の高い今回の講演会には本学の学部生、大学院生のほか、地域住民、社会人など、計230名ほどの人が参加し、講演を熱心に聴いていた。

開会のはじめに、本学丸本卓哉学長および中田範夫研究科長によるご挨拶がなされた。第1部の

講演では、日本経営学研究所(東京)の所長寺本義也先生が「日本企業の海外事業におけるパラダイム転換-課題と提言」の演題で講演が行われた。第2部の講演では、「中国・南開大学跨国公司研究中心主任(多国籍企業研究センター長)冨国明教授・副センター長の葛順奇教授が「中国市場における多国籍企業の投資と比較分析」の演題で講演が行われた。第3部の講演では、神戸大学大学院経営学研究科の黄磷教授が「ヨーロッパ市場における日中企業の戦略比較」の演題で講演が行われた。第4部の講演では、北海商科大学、北東アジア研究センター主任の西川博史教授が「グローバル化の進展とアジア企業の将来」の演題で、講演が行われた。

専門家たちは国際市場におけるアジア企業の現



開会に際し、ご挨拶をされている丸本卓哉学長、中田範夫研究科長及び講演者の諸先生方(右より 西川博史教授、黄磷教授、葛順奇教授、寺本義也教授)

在経営状況と将来の経営課題について、経済学、経営学の理論と実証的な方法で分析し、金融危機下において日本企業の海外における経営戦略はどのように展開していくべきなのか、学際的にもビジネスの現場でも指針を示唆してくれたことになった。このような学術水準の高い講演会には、山口県内外から多くの参加者は、熱心に講演を聴いていたようで、さらに各講演に対し、活発な質疑応答も行われ、成果の大きい講演会となったのである。今回のシンポジウム開催によって、本経済学研究科の教育・研究水準の向上に貢献したのだけではなく、同時に地域住民にも国際経済、経営学の先端的な研究成果を発信することができ、波及効果も大きい、更に今後見込まれる成果として、経済学、経営学など分野の専門知識の提供や

学際的研究に対する関心はますます高められることが期待される。

シンポジウムの後、行われたアンケート調査の結果では、今回の研究会の内容は「参考になった」「今後もぜひ開催して欲しい」という意見や感想が多かった。それにその時間帯はどうしても参加できなかった方々も多くいらっしゃったので、「ぜひ講演内容を読みたい」という要望に対応し、このシンポジウムの講演内容や論文を掲載することにした。これによって、もっと多くの方々にお読みいただき、波及効果が更に拡大されることは期待できる。

李 海峰 (シンポジウム実行委員長)